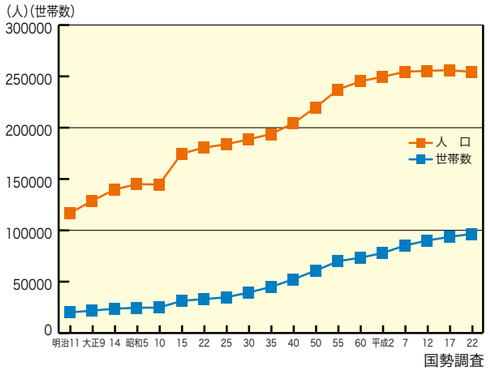
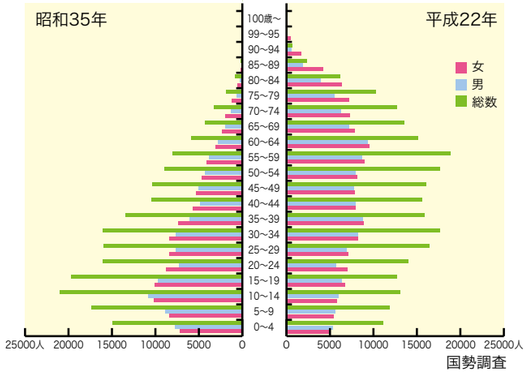
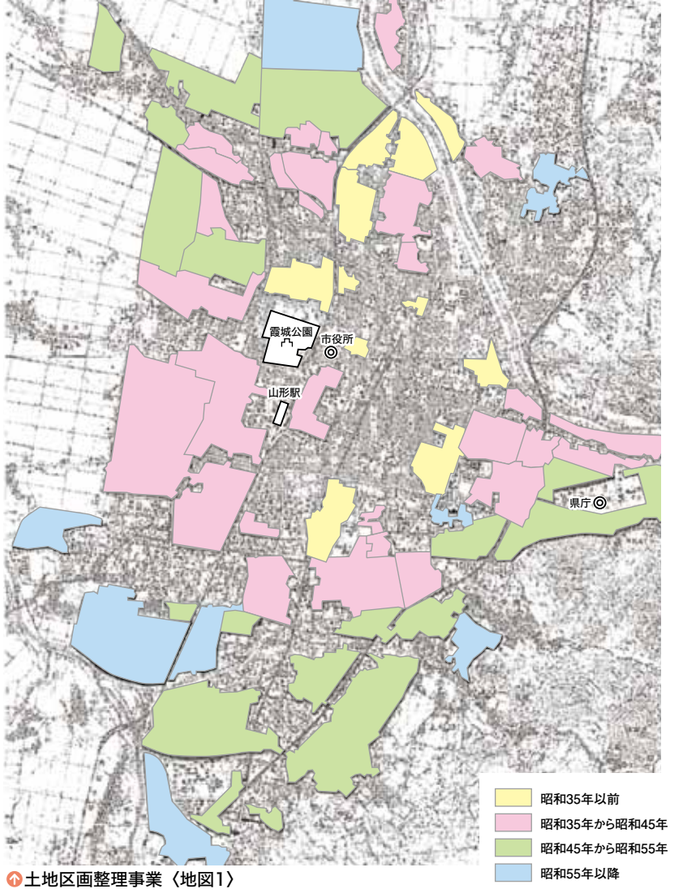
山形市の人口・世帯数の変遷〈グラフ1〉



5歳別年齢構成比較〈グラフ2〉





土地区画整理事業〈地図1〉

山形市町名と地名(昭和38)〈地図2〉

3 市街地の発展と土地利用

山形市の郵便番号
〒【990-××××】山寺他全て
〒【999-××××】山寺

山形市の電話番号
TEL【023-615-△△△△】～
【023-688-▽▽▽▽】
地域毎に異なる

進む高齢少子化

山形市の2014(平成26)年の人口は、254,077人です。グラフ1のように、1920(大正9)年は116,757人、2005(平成17)年には256,012人と増え続けて、県内人口の20%を占めていました。しかし近年、人口はわずかずつですが残念ながら減ってきています。

それはグラフ2のように、1960(昭和35)年には戦後生まれの若い人たちが多く住んでいましたが、今はその人たちが65歳以上の高齢者となってしまい、新しく生まれてくる子どもや若い人たちが少なくなっているからです。人口が減少し続ければ、産業・経済活動や教育活動等が停滞し、活力あるまちに縁遠くなってしまいます。

これらの問題は、山形市だけの問題ではありませんが、課題を解決するために早急に具体策をたてて、実行していくことが望まれます。

広がる市街地

明治期から昭和期までの中心地は、江戸期の城下町から発展した商店街の十日町・本町（旧横町）・七日町・鈴蘭街、そして市役所や旧県庁、銀行などが集まった官庁街の旅篭町でした。

昭和期になると、新しい住宅地－東原・小白川・南原・滝山・青田・桜田・城西・城南・西田・鈴川などが市街地の周辺に広がりました。住宅用地を提供する土地区画整理事業が、1970(昭和45)年以降に急激に進んだのです（地図1)。

地図は語る

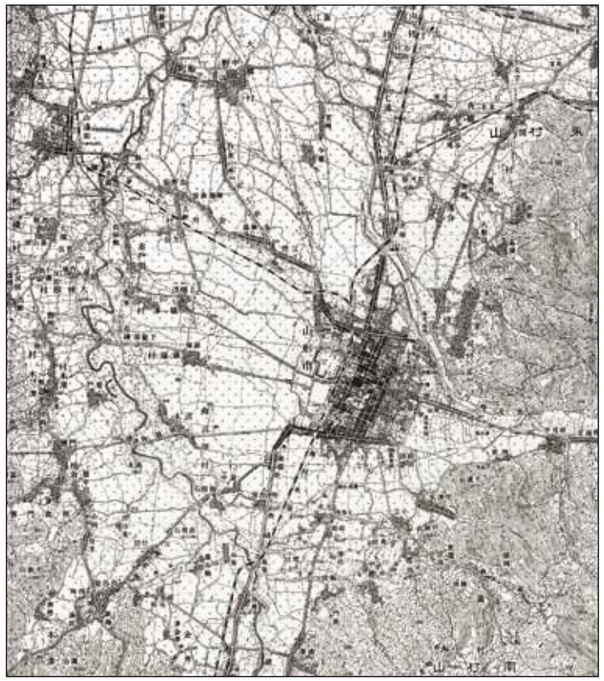
次頁の4枚の地図や現在の土地利用図を比べてみると、市街地と土地利用の変化がよく読み取れます。住居の表示も地番から変わり、歴史を物語る地名や町名は消えました（地図2)。住宅地が拡大するにつれて農耕地が減少し、第十・南・西・東・桜田小学校などが新設されていきました。

また、町なかにあった鋳物や印刷などの工場は、郊外に新設された西部工業団地や立谷川工業団地に移り、機械や電子部品を製造する新しい工場も建ちました。更に近年は広い売り場と駐車場を備えたショッピングセンターが吉原や嶋地区に進出し、空洞化した中心街の跡地は駐車場やマンションになっています。まちの様子は年毎に変化しており、中心街の再開発が望まれます。

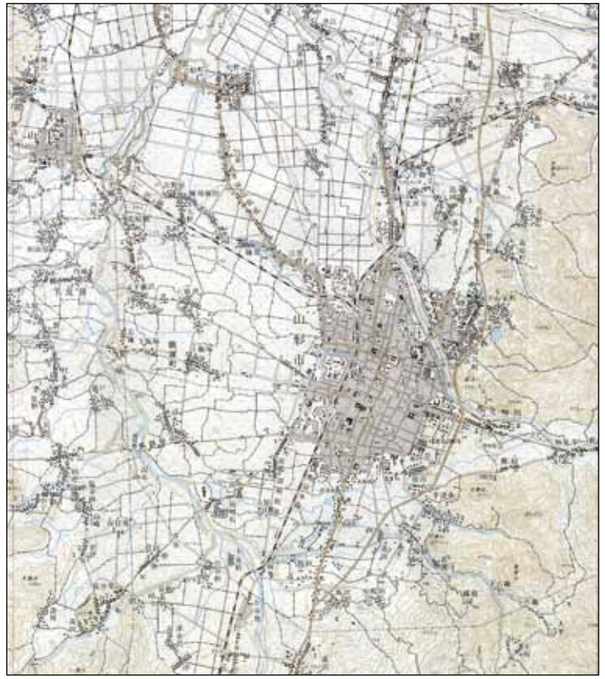
◆市街地の変遷〈五万分の一地形図を縮小〉

0　1,000　2,000　3,000m

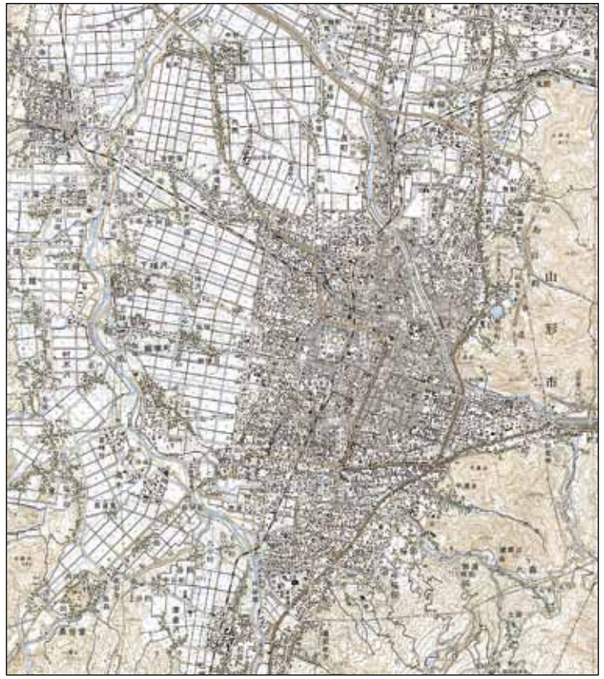
地図1〈明治36年〉



地図2〈昭和29年〉

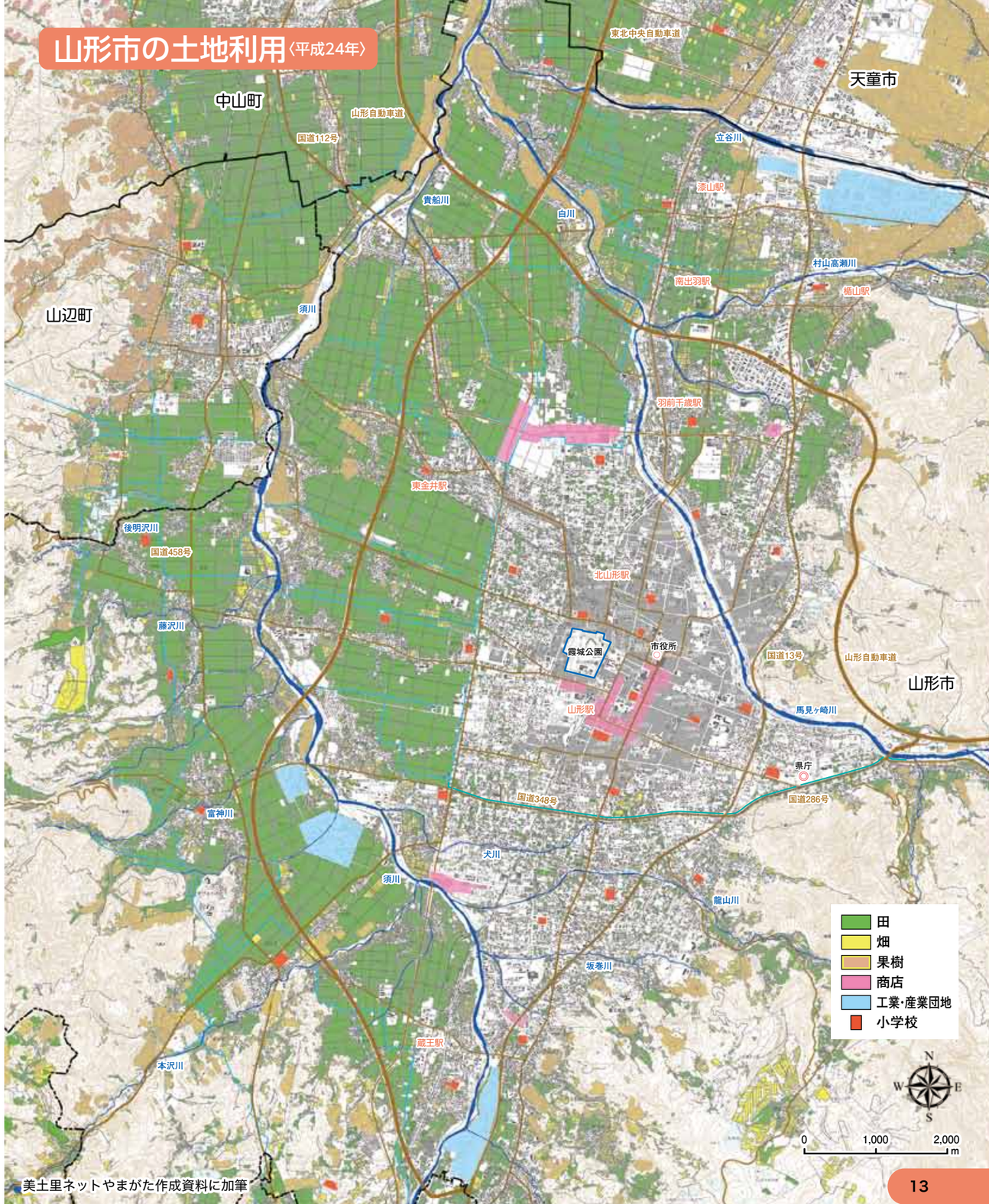


地図3〈昭和43年〉



地図4〈平成４年〉

山形市の土地利用〈平成24年〉



美土里ネットやまがた作成資料に加筆